

(6) 北陸



北陸地域では、景気は緩やかな持ち直しの動きが続いている。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに減少している。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は持ち直しの動きが緩やかになっており、依然として厳しい。

前回調査からの主要変更点

	前回(平成15年5月)	今回(平成15年8月)	
個人消費	おおむね横ばい	やや弱含み	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに減少している。

一般機械は、プレス機械や工作機械が自動車関連メーカー向けを中心に堅調に推移しているものの、建設機械の国内向けが引き続き低迷し、繊維機械では主力の中国向けの受注が減少傾向にある。電子部品・デバイスは、一部の製品において他地域への生産移行が行われたことから4月に水準を落としたものの、携帯電話向けや自動車関連向け等の半導体集積回路は堅調に推移しており、5、6月は全体ではおおむね横ばいで推移している。化学は、医薬品がOEM(相手先商標生産)や後発医薬品の生産等で堅調に推移している。繊維は、衣料用外需で主力の中国向けが弱含み、内需でも低価格輸入品との競合等により引き続き低迷している。金属製品は、アルミ建材において主力の住宅用がリフォーム案件への取組強化等で堅調に推移しているものの、ビル用では受注の増勢が鈍化している。

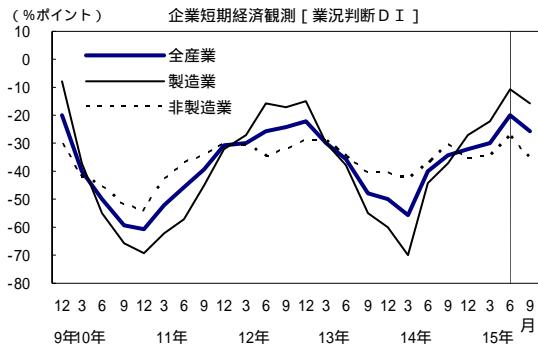


	付加価値 ウェイト	域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)			
		生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
一般機械	14.8	1.5	6.7	-	-
電子部品・デバイス	13.8	5.9	15.5	-	-
化学	12.7	1.4	0.1	-	-
繊維	12.4	2.5	1.2	-	-
金属製品	10.6	3.5	4.1	-	-
鉱工業	100.0	0.4	2.0	-	-

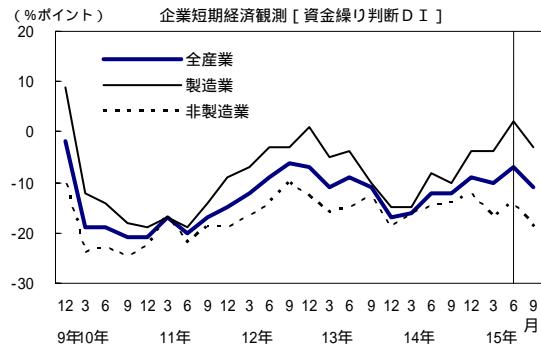
- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種
2. 出荷及び在庫指数は公表されていない。
3. 4~6月期は速報値。

(備考) 平成15年6月の北陸は速報値。

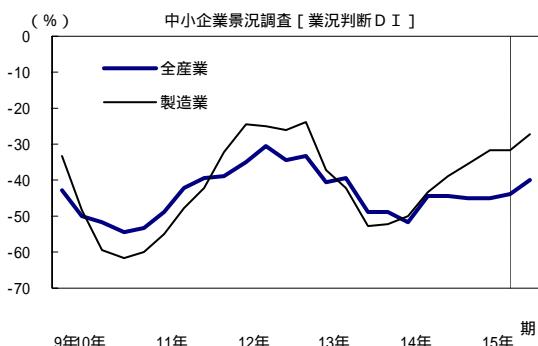
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。
 企業短期経済観測調査 [業況判断 D I]、資金繰り判断 D I 及び中小企業景況調査 [業況判断 D I]



(備考)「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。15年9月は予測。



(備考)「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。15年9月は予測。



(備考)「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。15年期は見通し。
 中部地区のD I。

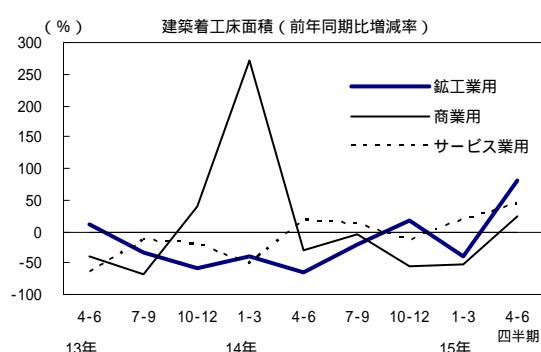
景気ウォッチャー調査 (7月調査)[企業動向関連 (現状判断)]

「相変わらず同業者の受注価格の低下が続き、厳しい状態である(織維工業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の15年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査)]		
	(前年度比増減率、単位: %)	
	14年度実績	15年度計画
全産業	6.7 (2.5)	8.4 (0.8)
製造業	12.2 (0.1)	15.1 (3.4)
非製造業	12.1 (9.7)	9.9 (4.1)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。



(6) 北陸

2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

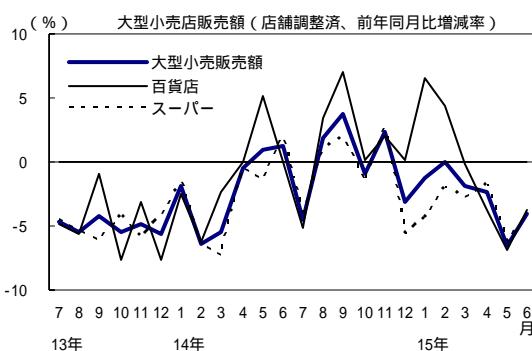
百貨店は、4月は天候不順の影響等から春物・初夏物衣料が振るわず、衣料品を中心に前年を下回った。

5月は、身の回り品は好調であったものの、母の日関連の婦人衣料を中心に衣料品が不振で、飲食料品も前年を下回った。6月は引き続き身の回り品は好調であったものの、父の日関連の紳士衣料が振るわず、主力の婦人・子供服も前年を下回ったことから衣料品全体でも前年を下回った。昨年4月以来の一部百貨店の増床効果も一巡したことから、全体では4か月連続して前年を下回った。

スーパーは、期間を通じて飲食料品は底堅く推移したものの、婦人服を中心とした衣料品が振るわず、全体では7か月連続で前年を下回って推移している。

景気ウォッチャー調査（7月調査）[家計動向関連D I (現状判断)]

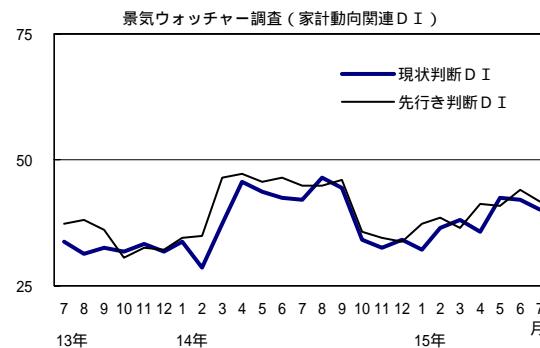
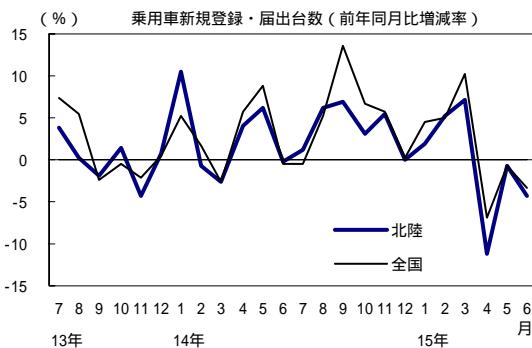
「エアコン、冷蔵庫が、長い梅雨と低温により前年比で大幅に落ち込んでいる。パソコンやデジタル家電などは健闘しているが、前者の落ち込み分をカバーできない（家電量販店）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	14年7-9月	10-12月	15年1-3月	4-6月
大型小売店	0.1	0.8	1.1	4.3
百貨店	0.7	0.7	3.3	4.9
スーパー	0.6	1.8	3.2	4.0
乗用車	4.6	3.0	5.7	5.3
景気ウォッチャー	44.4	33.7	35.5	40.1

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。15年4-6月は速報値。

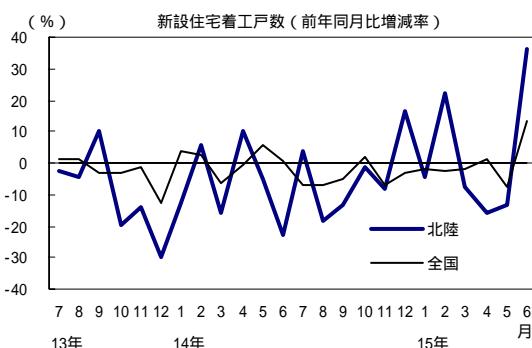
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

貸家と分譲が前年を下回ったものの、持家が前年を上回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は年度累計でみると前年を下回っている。

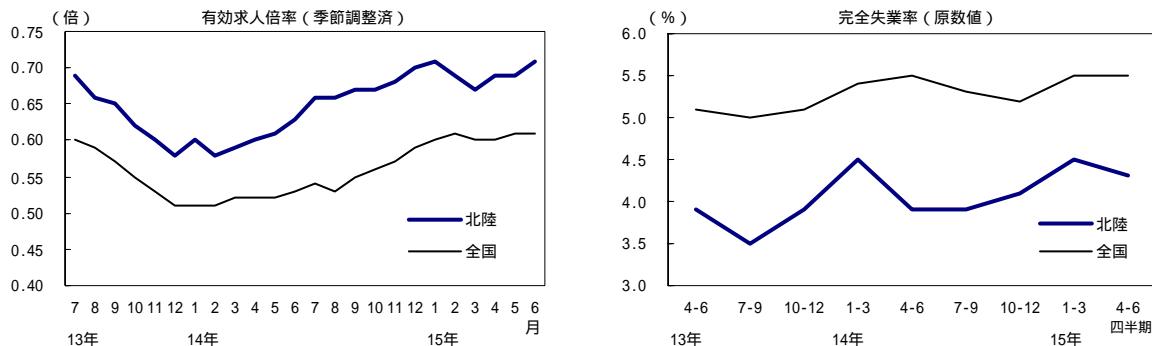


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は持ち直しの動きが緩やかになっており、依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はこのところ上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査(7月調査)[雇用関連(現状判断)]

「求人広告は前年に比べて1割増の水準を維持している。中身はIT関連の一部業種のアルバイト関係などである(新聞社[求人広告])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	14年7-9月	10-12月	15年1-3月	4-6月	15年7月
倒産件数 (前年比)	148	114	116	100	42
負債総額 (前年比)	24.4	0.9	8.7	13.8	10.6
	649	317	350	202	154
	117.9	77.9	23.6	38.3	7.7



景気ウォッチャー調査(7月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

・冷夏の影響により、ビアガーデンを始め飲食店の来客数が落ちているため、これらの業者向けの売上が減少している(一般小売店[鮮魚])。

<先行き>

・輸入牛肉の関税率アップにより客の買い控えが生じ、売上の減少が見込まれる(スーパー)。

